

2024年度日本食品海外プロモーションアドバイザリーボード開催要旨

(1) 開催日時 2024年12月24日(金) 14時~16時

(2) 開催場所 ジェトロ会議室 5階5A会議室

(3) 出席者

<アドバイザリーボードメンバー>

青木 優 株式会社MATCHA 代表取締役社長

小西 利行 POOL Inc. Creative Director / Founder

平野 伸一 元アサヒビール代表取締役社長

家形 晶子 Y.A.&Co.合同会社

山庄司 岳道 食肉輸出入コンサルタント/
学校法人 竹岸学園 竹岸食肉専門学校非常勤講師

(五十音順 敬称略)

<JFOODO>

中山 勇 執行役

北川 浩伸 執行役

岩田 知統 事務局長

武田 三範 海外プロモーション事業課長

大曲 美樹 海外プロモーション企画課主幹

飯田 康久 海外プロモーション企画課主査

大曲 幸代 事務局長代理

<オブザーバー>

森 重樹 農林水産省輸出・国際局長

高山 成年 農林水産省大臣官房輸出促進審議官(兼輸出・国際局)

吉松 亨 農林水産省輸出・国際局輸出企画課長

渡邊 郷 農林水産省輸出・国際局輸出企画課輸出戦略調査官

依田 学 経済産業省通商政策局審議官(通商政策局・農林水産品輸出担当)

久染 徹 経済産業省通商政策局参事官(海外展開支援担当)

(4) 議事次第

開会

- (1) 出席者紹介
- (2) 前回助言を踏まえた 2024 年度の取り組みについて説明
- (3) 意見交換
 - ①品目プロモーションについて
 - ②食文化発信について
 - ③その他

閉会

(5) 主な助言内容

- ✓ 世の中にでている情報の 99%以上は、予測可能なものであり、その中で話題を喚起するためには、突発的なストーリーや意外性のあるコンテンツとすることが効果的である。
- ✓ 例えばアメリカの「MAHA（マハ：Make America Healthy Again）」の動きのように、世界中で健康的な食事への関心が高まっている。日本食における一汁三菜の考えのような、複数品目を食べるバランスの良さなど、健康的で美味しい食事をとる点を訴求することが効果的ではないか。
- ✓ 現地スーパーやレストランへの販路拡大のために畜産物、水産物、野菜・果物等の商品を非和食である現地メニューに導入することは非常に重要。そのためには、更なるメニュー提案が必要。
- ✓ 世界人口の 25%はイスラムだと言われており、ハラールマーケットは有望な市場の一つである。今後、ハラールマーケットの消費者にどういった風にアプローチするのも重要である。
- ✓ 過去に、世界における日本のウイスキーの存在感が高まったのは、著名なウイスキーマガジンのライターを来日取材させて発信したことによるものであり、目利きのある審美眼を持つと認められる人から世界に向けて発信してもらうことは非常に重要である。

(以上)